

環境教育学会 関西支部通信

第5号

### 関西ECOMAIL

環境教育学会関西支部から関西の会員の皆様に、ワークショップのお知らせと関西の環境教育に関わる情報交換をしていただくために発行しています。

また学会員外の方々が環境教育に関心を持っておられる方や実践をされている方のコミュニケーションも広く図りたいと思います。

1000円の通信費(1年分)をいただきましたら、ワークショップの案内葉書とECOMAILを送らせていただきます。

(通信費振込先……郵便局「大阪 9-37886」環境教育学会関西支部)

## 日本環境教育学会第二回大会 (大阪)

後援:

文部省、環境庁、農林水産省、大阪府、大阪市、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会  
プログラム:

1991年5月18日(土) 受付(9:00~) 開会行事(10:20~)

特別講演 宮本憲一 「持続可能な発展と環境教育」(10:30~12:30)

シンポジウム(13:30~16:00) 司会 山田卓三(兵庫教育大)

中山和彦(筑波大) 「環境教育の国際的動向」

永末宏英(大阪体育大) 「野外教育と環境教育」

山極 隆(文部省) 「学校教育での環境教育」

藤永延代(市民生協専務理事) 「市民レベルでの環境教育」

総会(16:00~17:30) 懇親会(18:00~20:00)

5月19日(日) 受付(8:30~)

一般講演(9:00~12:00 14:00~16:30) 報告65件(三会場)

関連集会(12:00~14:00) 7集会(七会場)

インフォーマル・ミーティング(16:30~) ドナルド・オースター

テーマ 「アメリカ人と国立公園」ほか

会場: 大阪南YMCA (JR天王寺駅北出口から東へ徒歩5分)

参加費: 当日 3500円(二日間) (学生 1500円)

問い合わせ先: 日本環境教育学会関西支部(宛先、電話番号などは本号8頁に掲載)

## 第8回ワークショップ(1991.2.23)報告

### ガキ大将達の自然観察

有馬忠雄(府立香里丘高校)

滋賀県朽木村・朝日キャンプ場に、年2回「子どもと共に自然観察」研究会が持たれ、自然観察のあり方についての研究やら研修が進められている。この研究会は1984年4月以来既に14回を数え、第10回目(1989年5月)を記念して「研究紀要」も作られた。

この研究会でこれまでに確認された事柄は次の3点に絞られる。

- ① リーダーは子どもたちに自然について教えるよりも、子どもと自然の間の仲立ちをする。
- ② 自然の中で対象物に眼を向けさせ、疑問を解決させるためには「キッカケ」が必要である。
- ③ 子どもたちの活動を引き出すためには、リーダー自身が先ずガキ大将でなければならない。

これらガキ大将達の何人かは、淀川自然教室・枚方自然教室その他いろいろな場面で子どもたちとの自然観察につき合ってきた。そこでは、子供たちによるいろいろな発見がなされ、ガキ大将達自身もそれに触発される面が多々あったのである。これら自然教室の目的は、生物から“生きている”ということの実感を得るといふところにあると言える。

さて、環境教育は上に述べたように、向かい合っている生物から、それが“生きている”との実感を得るところから始まるのだと私は考える。環境教育研究の一つのテーマとして私は“生きている”ことの実感は何の生物のどのような事から得ることが出来るのかを提案したい。

さらに、環境教育を教育の原点に立って考えていかねばならないということも提案したいのである。



### 大阪府立野外活動センターにおける環境教育の動き

野外センター

木内 功

当野外活動センターは、開設以来、青少年が自然に親しむ施設として25年を経て、200万人を超える人達が利用しています。その中で、自然教育は、大きな柱として展開し、ハード面ではネイチャーセンターの設置(昭和45年)、ソフト面では、自然教育セミナーの開催、子供向けの自然教室の実施などとともに、ニュージャージー州立自然保護教育センター(米国)と姉妹センターになり(昭和47年)、自然教育を推進してきました。その様な状況のなかで、環境問題の高まりと相まって、青少年にとっても環境教育は必要との認識から、より広い環境教育を進めていくため、職員研修のテーマを「環境教育」として取り組み始めました。ちなみに、個人研修での

それぞれのテーマのいくつかを紹介すると、環境データーからみるセンター・炭焼窯の復元・自然教室考・学校における自然教室の現状・野外センターにおける環境教育の位置づけとその取り組み・野外センターにおけるネイチャープロデュースなど様々です。

また、施設が25年を経て再整備の時期にきており、再整備計画の中で、環境教育センター（仮称）の検討も考えられているところです。



## かもしかの会関西・のびのび自然教室

立澤 史郎（かもしかの会関西代表）

かもしかの会関西は、「野生動物と人間社会の共存」を理念に、1980年からニホンカモシカ（滋賀県）やニホンシカ（大阪府）の生息や食害の実態調査、それにポリネット等の共存的な防除法の作業を行なっているボランティアグループです。

そのボランティアたちが、子供の頃から様々な生物と触れ合うことの大切さを身にしみて発起したのが「のびのび自然教室」です。当初はナショナルトラストで知られる天神崎の保全運動に協力することも目的として「天神崎自然教室」として発足（1983年）し、市民運動の新たな交流方法としても注目されました。その後同じ和歌山県の千里浜というフィールドを得、春は天神崎（2泊）、夏は千里浜（3泊）で自然教室を開催し、他に日帰り観察会やリーダー研修などを行なっています。対象は主に小3から中3で、およその登録者は200人、リーダーが20人ですが、実際の参加者は各回20～50人、リーダーが10人ほどで、日常の作業は3～4人で行なわれています。また高校生はサブリーダーとして運営に参加してくれます。

内容は様々ですが、自然に抱かれて遊ぶ、むやみに生き物を傷けない、という方針は共通しており、リーダーたちが子供たちを通して、自然や子供たちとのふれあいの素晴らしさを学ぶ場ともなっています。規模拡大につれて少ないスタッフは事務仕事に忙殺され、また「動物」部門とも独立して活動せざるを得なくなり、スタッフとの交流も途絶えがちですが、現在は念願(?)の第一期生が大学生（や予備校生!）となって復帰し、2サイクル目に向けて戦略を立て直す時期にきています。学生、特に教員を目指す人たちにこそこのような活動に参加してほしいのですが、環境問題のフォーム化とは逆に、子供たちと触れ合うことを楽しめる人たちが減ってきているように思うのは気のせいでしょうか? 同じような活動をしている方のご意見をお聞かせ願えれば幸いです。

（これまで自然教室は、天神崎で8回、千里浜で7回、開催されています。）

# 野鳥の広場

## しあわせの青い鳥



村上 茂

「青い鳥」って聞くと、みんなは何を思い出すかな？メーテルリンクという人の書いた「しあわせの青い鳥」の話かな。あの話は、幼い兄と妹が「しあわせの青い鳥」を探して旅をするんだけど、結局「青い鳥」そのものは見つからず「しあわせ」を見つけるっていう内容だったと思う。ところがこの「青い鳥」、実際に見ることができるんだ。今日はそんな「青い鳥」の話をしてみよう。

2月24日、リーダーはみんなの友達20人と一緒に私市のハイキングに行ったんだ。そこで「青い鳥」にであつたんだよ。この日は、オリエンテーリングをしたんだけど、「途中はバードウォッチングをしながら行こう。」ってことになっていた。おなじみさんのヒヨドリ、シジュウカラ、コゲラをはじめツグミ、シロハラ、ウソ、アトリなどいろんな鳥に出会うことができた。中でもとびっきりだったのがルリビタキだ。みんなの集合したハス池（この日はとっても寒くて、池に厚い氷がはっていたのでみんなで割って遊んでいたね。）の所に出てきて、ずっと池の回りをチョコチョコ飛びまわっていたんだ。1~2mそばまで近づいてきて、双眼鏡もいらないくらいの大サービスだった。実は、このルリビタキっていうのが「青い鳥」なんだ。ヒタキってのは目がまんまるなかわいい小鳥なんだけど、ルリ色（青色のこと）をしたヒタキなので、ルリビタキって名前がついている。オスは頭から背中にかけてがきれいなライトブルーで、おなかが白、わきがカキ色をしていて、冬の白茶けた山のなかではとってもカラフルできれいだ。メスは尾だけが青いんだけど、オスの姿を見れば、まさに「青い鳥」だと、きつと思うよ。

しかし、残念なことに、この「青い鳥」このあたりでは冬の間しか見られないんだ。夏の間は、高い山などもっと涼しい所で過ごしているんだね。そうなんだ、冬鳥だから暖かくなってくると見れなくなってしまう。みんなの手元に、この新音が届いた頃には、北のほうを自差して飛び立っているだろう。やっぱり「青い鳥」は「まぼろしの鳥」なんだろうか…。ご心配なく!! 春になるとやってくる「青い鳥」もいるんだ。オオルリがそうだ。ほら、ルリってついてるだろ。この鳥もヒタキの仲間なんだけど、少し大きいからオオルリって名前がついているんだ。

大きさは16.5cmくらいで(ちなみにルリビタキは14cm)スズメが14.5cmって言うから、少し大きめだね。オオルリは、春になると、南の国から日本へやって来て、低い山のきれいな川沿いに巣を作ってヒナを育てるんだ。オスは、頭から背中が青紫色、顔から胸は黒くって、おなかが白い。さえずり(鳴き声)もなかなか素敵なんだ。メスは茶色をしていて「青い鳥」じゃない。リーダーは、サクラの枝に止まっているオスのオオルリに出会ったことがあるんだけど、サクラのうすいピンクにオオルリの青がすごくきれいで、思わず見とれてしまって大学の授業に遅れそうになったことがあるくらいだ。大阪の近くなら、箕面の勝尾寺って所がよく見ることができる。

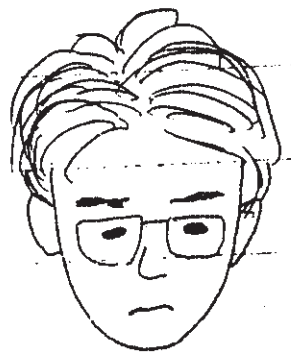
さて、ルリビタキもオオルリも山の鳥だね。実は川にも「青い鳥」がいるんだ。  
ーんときた人もいるかな? そう、カワセミだ。名前は聞いたことがあるって人もいるんじゃないかな。頭から背中にかけて、ホイルカラー(青や緑に光ってる色紙)の青緑のような色をしている。何てったってこの鳥、漢字では「翡翠」って書くくらいだからね。おなかはカキ色だけど、水面すれすれに飛んでいる姿は、やっぱり、光る「青い鳥」だね。光線の加減で緑色に見えたりもする、とってもきれいな鳥だ。よく川岸の少し高いススキの先なんかにとまっていて、そこから魚をねらって水中に飛び込んでいる。くちばしが体のわりに大きくって、何だかチョココンとした感じがしてとってもかわいい鳥だ。

「青い鳥」の話、どうだったかな? 大急ぎでルリビタキ、オオルリ、カワセミの話をしちゃったけど、みんなが見たことのある「青い鳥」はあったかな? 「まだ『青い鳥』を見たことがないっ!!」っていう君、どうだい? 今度リーダーと一緒に探してみないかい? あの「しあわせの青い鳥」を!!

(「かめのご新聞」 13号(1991年4月) pp.3~4 より転載)

むらかみ しげる さん

学生時代、箕面や五月山で探鳥会というサークル活動をされ、「鳥」に詳しい。自然教室のリーダーになられて、今年五年目。現在、大阪市鶴見区の小学校で4年生のクラス担任をされている。



(村上茂さんのこの文章は、「のびのび自然教室」のニュース・レターから転載したものです。「のびのび自然教室」について詳しくは、本号の「かもしかの会関西・のびのび自然教室」の項を御覧下さい。)

# ECOLO人

## 自然と語る 「あるがままの山の中で」

アルトス・ヴィレッジ リーダー 戸川勝義

私たちは但馬地方で「自然と人」「人と人」の出会いを通して「心に栄養」を蓄えることができることを願って、私設キャンプ場としてファミリー・個人・グループを対象に主催キャンプ活動と貸出キャンプ場活動を運営しています。

★私達は次のようなことに注意しています。

- ①食をいい加減にしない、加工食品等は控え可能な限り素材のみ提供しています。
- ②ゴツゴツの要素をできる限り控え、生活の中にある物・行為を通して活動しています。
- ③夜間も自由に活動します。（例えば、起床就寝をうるさく言わないで星空などをゆっくりたのしみます）。
- ④集団行動よりも、個人の行動を大切に、自然の山の中を楽しむ。

★野山でこんな出会いがありました。

山のなかで初めは座るのが気持ち悪い、虫がいると座ることを拒否した人が、数分後にはベッタと座っていたので、山は気持ち悪いのではないかと聞くと「ぜんぜん・・気持ちいいと」平然としていた。山の中の気温と外の気温がなぜ違うのか質問してきたので、説明と、また地表面と地下の温度差の話をする、さっそくスコップを持って自ら穴を掘って確かめていた。また、草木染のとき男の子が「ふじの葉」から黄色いいろがでるとは「はっば」は緑だから緑と思っていたのに……と不思議そうに感心していた。他の子も公園にある「ふじ」がなぜ山の中にあるかと聞いてくるのには驚くばかりでした。

子供たちは泥んこ遊びがすきだというのが、砂場の砂遊びではなく、水溜まりに入り裏表が区別つかないくらいの泥遊びを体験するときの目の輝きと親の溜め息をも聞くたびに、内心では子供たちによくやったとほめてやっています。

また、食事も楽しい。主婦曰く、本を見ながら沢山の材料と調味料を使っていつも苦労して作る料理よりも、あるものを使ったこの料理が美味しいのは不思議だと感心していた。環境が食物の味まで変える。青空の下での活動は本当の自分に帰るとき、自分の持っている体の機能が呼び戻され、キャンプでは知らない体験が出来るのです。特別の知識・技術を持たなければ出来ないわけでもなく、特別変わった用具がいるのではない。「自然と語

る」のに必要なものは「自然をおもう心」を持って出掛けることです。到着したときの顔はきまって「シマッタ」くるのではなかった。アルトス・ヴィレッジの山には何にもないとふまんが見える。しかし、数日後にはなんにもなかったが沢山のことができたと言ってくれ、帰る時はまだ居たいと言って私たちを励ましてくれます。

これからも、自分の「からだ」が感じて初めて自分の自然感として真の価値があるので、便利な施設にしないように、ただひたすら山の中で過ごす時と場所を大切に、自然が好きで人が好きな人と共に一味違う体験を探していきます。

(年間を通して活動しています。5. 8. 9月には主催キャンプも計画しています。キャンプ場資料やキャンプの菜等もありますのでお問い合わせ下さい。)

アルトス・ヴィレッジ 〒667-03 兵庫県養父郡大屋町大屋市場 548  
☎ 0796-69-2018 FAX 0796-69-2019



### 設立 「あまがさき環境共育の会」

2月にYMCA六甲研修センターで開かれた「環境共育ワークショップ」がきっかけとなり、「あまがさき環境共育の会」が誕生しました。

「教育」ではなく「共育」、教えたり教えられたりという関係ではなく、メンバーだけでなく、さまざまな立場の人たちと一緒に、何かを育てていきたいと思っています。

どなたでも、是非一度ご連絡下さい。

(福井 ☎ 06-412-6360 事務局 ☎ 06-772-7406 (スマイル事務所内))

## ネット・ワーク



### (1) 「千里北自然観察会」

5月11日(土) 14:00~16:30 場所:吹田市立千里北公園

担当:菅井啓之 (大阪教育大学附属小学校教諭)

主催:緑と教育を考える会、千里北自然観察会

問い合わせ先:GECグローバル文化研究所(☎ 06-222-3261)

(2) 「5月のあまがさき 見て歩き自然のグルメも味わってしまおうハイキング」

5月12日(日) 午前9時 (集合 阪急園田駅)

対象 小学生以上 (幼児は保護者の付き添いが必要) 参加費 200円

5月の猪名川沿いをハイキング! 今まで気づかなかった何かを見つけに行きます。おまけに、野草でちょっぴりグルメ気分も。

主催・受付・問い合わせ先 あまがさき環境共育の会  
(スマイル事務所内 ☎ 06-772-7406)

(3) 「自給ふし各体験キャンプ 第6回 ー補給工場キャンプー

6月8日(土)～9日(日) 1泊2日

関西支部第7回ワークショップでも報告された名高い取り組みです。

今回のテーマは、「都市とゴミと子ども達」。

主催・受付・問い合わせ先 豊中市立中央公民館 (☎ 06-866-0555)

(4) 「瀧野ネイチャー・プロジェクト スチューデント・セミナー」

6月14日(金)～16日(日) 2泊3日 対象 学生 定員 120名

場所: 清里キープ協会 清泉寮 (山梨県北巨摩郡)

今まで清里で培われた環境教育の紹介や実演をベースに、学生間のディベート、ネットワークづくりを進め、これからの環境教育を考える場として、このフォーラムを催すことになりました。詳細は、次のところにお問い合わせ下さい。

受付・問い合わせ先

清里ネイチャー・プロジェクト スチューデント・セミナー事務局

(東京都渋谷区神宮前2-15-8 アスラKビル3F オーク・ハーツ内

☎ 03-3423-9893 FAX 03-3423-7992)

または、渡辺 (大阪教育大学 環境科学教育研究室 ☎ 06-771-8131 内線417)



◆関西支部ワークショップ話題提供、エコメール投稿を募集しております。

◆ネットワークへの情報提供もよろしくお願い致します。

---

関西E C O M A I L 第5号 1991年5月1日発行

通信費 年1000円

編集 環境教育学会関西支部世話人会

発行 環境教育学会関西支部

〒543 大阪市天王寺区南河堀町4-88 大阪教育大学 鈴木善次研究室内

(☎06-771-8131 [内線 417])

パソコン通信で原稿を下される場合は、NIFTY= PFG00460

次回 第6号 1991年7月1日発行予定 原稿締め切り 6月20日